

●支援経過

(R元年6月25日～ R元年11月8日)

課 題	具体的支援	家	学校	放課後デイ		
①トイレトレーニング	定時誘導を促す。 日中は、布パンツを利用する。	オムツで過ごしていることが多い。定時誘導で、排尿することが多い。	30分～40分間隔で誘導する。教師と一緒にに行く。日中は、布パンツで過ごしているが、下校時や校外学習時は、オムツで過ごしている。	学校から事業所に到着時、オムツに排尿していることもある。排尿していない時は、トイレ誘導。30分間隔で、誘導している。遊びの延長で、失禁することもある。		
②人前で、性器を触ることを減らす。	父親や男性職員付き添いの元、性器を触る場所や空間を限定する。本人の気持ちを、他にそらす。	イライラや不安が募った時に、触ることが多い。父親の協力の元、場所をトイレに限定する。「ダメ」と制止されると、性器を触る。	活動が嫌な時、周囲が騒がしい時に、性器を触る。男性職員がトイレへ誘導するが、制止されると、他害（噛みつき）やパニックに繋がる時がある。	周囲が騒がしい時に、性器を触ることがある。トイレや個別のスペースに場所を限定するが、制止されると、他害（噛みつき、叩く）がある。		
③落ち着いて過ごすことができる日を増やす。	パニックの背景要因に、目を向ける。 苦手な環境や刺激は、できる限り減らし、環境を整える。 活動の見通しが持てるように、スケジュールや写真カードを用いて、提示する。	怒りすぎた時や、負荷をかけ過ぎると、パニックに繋がる。本人の好きな、外遊びや、外出をしている。	性器を触ることを制止されると、パニックになる。 写真カードで、活動の見通しを伝える。 楽しみを励みに、活動に取り組む。 (プール・水遊び)	安心して過ごせるように、個別のスペースを作り、環境の工夫を行う。テラス遊びなど本人の好きな活動を取り入れる。行事が好きである。		
④本人から発信するコミュニケーション手段を増やす	具体物を用いて、「～をください」と言う、やりとりをする。 写真を提示して、「～へ行ってきます」と言う練習をする。	具体物を提示して、「～をください」と言う、やりとりを行う。	図書室へ行く際に、語頭を伝えると、自分で伝える。特定の職員や友達に、「～してください」と聞わりを求める。	具体物や写真カードを提示しながら、話す。単語での、やり取りの練習をする。		
⑤生活リズムを整える。	睡眠・生活リズム表を活用し、家庭・学校・放課後デイサービスで、共通理解を図る。 日中、体を動かす活動を、積極的に取り入れる。	睡眠リズム表に、睡眠時間を記入する。 精神科受診の際に、医師に渡す。生活リズム表に、パニックの有無等を書く。	生活リズム表に、パニックの有無等、本人の学校での様子を、記入する。 プールや体育等、体を動かす活動を取り入れる。	生活リズム表に、パニックの有無等、本人の放デイでの様子を、記入する。 テラス遊びを行うなど、体を動かす活動を取り入れる。		